泉中学校いじめ防止基本方針

**１　いじめの防止についての基本的な考え方**

いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。また、　　　どの生徒も被害者にも加害者にもなりうる。これらの基本的な考えを基に教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。

何より学校は、生徒が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場　　　　　　　　　　　　　　　　　でなくてはならない。生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認　め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。そうした中で、生徒が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

　　教職員間の「いじめ」対応に対する温度差が出ないように、基本方針を何回も全員で繰り返し確認し、毎年見直しや策定し直しが実施されるようにしていくことが大事である。

**２　いじめ防止対策組織**

「いじめ防止対策委員会」を設置し、いじめのささいな兆候や懸念、生徒からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。

《いじめ防止対策委員会》

構成員…校長，教頭，教務主任，校務主任，生徒指導主事（兼いじめ対策主任），

養護教諭，該当担任，その他の担任

市教委

※１教頭

いじめ防止対策委員会

校長

いじめ発見！

※２校外の関係諸機関

生徒指導主事

※１教頭不在時は教務主任または校務主任がその役を果たす。

※２青少年健全育成委員，警察，児童相談所など

（１）「いじめ防止対策組織」の役割

ア　「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

　　　・学校評価アンケートを行い、学校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。

イ　教職員への共通理解と意識啓発

・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。

　　　　・いじめアンケートや教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。

ウ　生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

・ホームページ等を通して、いじめ防止の取組状況や学校評価結果等を発信する。

エ　いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

　　　　・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。

　　　　・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。

　　　　・問題が解消したと判断した場合も、その後の生徒の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。

**３　いじめの防止等に関する具体的な取組**

1. いじめの未然防止の取組

ア　生徒同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。

イ　生徒の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。

　　　ウ　教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。

エ　スマホ等、SNSに関する生徒の置かれた状況(保持数、使用時間や使用実態等)をつかむ。情報モラル教育を推進し、生徒がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。

　（２）いじめの早期発見の取組

　　　ア　Q―U、いじめアンケートや教育相談を定期的に実施（年３回）し、生徒集団の特徴をしっかりとらえ、生徒個々の小さなサインを見逃さないように努める。

　　　イ　SGE・SST強化週間を学校全体でもうけ、計画的に教師と生徒との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。

　　　ウ　教育サポートセンター等のいじめ相談電話、外部の相談機関を紹介し、生徒が相談し　やすい環境を整える。校内においては、相談担当の周知を図るとともに，積極的な声かけを実施する。

（３）いじめに対する措置

　　　ア　いじめの発見・通報を受けたら｢いじめ防止対策委員会｣を中心に組織的に対応する。

　　　イ　被害生徒を守り通すという姿勢で対応する。

　　　ウ　加害生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。

エ　教職員の共通理解を図り，保護者の協力、スクールカウンセラー、校区青少年健全育　成委員会，教育サポートセンター、警察署、児童相談所等の関係機関との連携のもとで取り組む。

　　　オ　いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。

　　　カ　ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

**４　重大事態への対応**

（１）重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。

（２）学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ防止対策委員会」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。

（３）調査結果については、被害生徒、保護者に対して適切に情報を提供する。

**５　学校の取組に対する評価検証・見直し**

（１）学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、ＰＤＣＡサイクル（ＰＬＡＮ→ＤＯ→ＣＨＥＣＫ→ＡＣＴＩＯＮ）で見直し、実効性のある取組となるよう、努める。

（２）いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び保護者への学校評価アンケートを年に3回実施（６月、１２月、２月）し、いじめ防止・不登校対策委員会でいじめに関する取組の評価・検証を行う。

**６　その他**

　（１）いじめ防止に関する校内研修を年２回計画し、生徒理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。

（２）「学校いじめ基本方針」は、ホームページに掲載する。

　（３）長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

【重大事態の対応フロー図】

重大事態の発生

担任，生徒指導主事が事態を把握し教頭・校長報告

教育委員会へ重大事態の発生を報告

教育委員会が調査の主体を判断

学校が調査主体の場合

学校に重大事態の調査組織を設置

※「いじめ防止対策組織」を中心に調査組織をつくる。

※必要に応じて関係者と直接人間関係または特別な利害関係を有しない第三者の参加を図ることにより、当該調査の公平性・中立性を確保するように努める。

事実関係を明確にするための調査を実施

※因果関係の特定を急がず、客観的な事実関係を速やかに調査する。

※事実としっかり向き合う姿勢を大切にする。

いじめを受けた生徒その保護者いじめを行った生徒とその保護者へ適切な情報提供

※関係者の個人情報に十分配慮しつつ、情報を適切に提供する。

※調査に当たって実施するアンケートは、調査に先立ちその旨を調査対象の在校生や保護者に説明をする。

調査結果を教育委員会に報告

※希望があれば、いじめを受けた生徒または保護者の所見をまとめた文書も調査結果に添付する。

調査結果を踏まえた必要な措置

※調査結果を踏まえ、再発防止にけた取組を検討し、実施する。

　　　　　　　　　　　※再発防止に向けた取組の検証を行う。

＜取組の年間計画＞

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ｢いじめ防止･不登校対策委員会｣ | | 未然防止の取組 | 早期発見の取組 | 保護者・地域との連携 |
| ４月 | Ｐ  Ｄ  Ｃ  Ａ  Ｐ  Ｄ  Ｃ  Ａ  Ｐ  へ | ○「学校いじめ基本方針」の内容の確認 | ○相談室やＳＣの生徒、保護者への周知  ○学級開き、学年開き  ○新入生歓迎会（縦割り）  ○保健指導（心と体の成長） | ○いじめ相談窓口の生徒、保護者への周知  ○身体測定 | ○「学校いじめ基本方針」をＨＰにアップ |
| ５月 | ○現職研修①「生徒理解と学級づくり」 |  | ◯エンカウンター週間 |  |
| ６月 |  | ○情報モラル指導（ネットモラル） | ○「心のアンケート  （いじめアンケート）」  ◯エンカウンター週間  ○教育相談週間  ◯Q―U実施 |  |
| ７月 | ○全教職員による「取組評価アンケート」の実施→検証 | ○総合体育大会選手激励会 | ◯エンカウンター週間 | ○個人懇談会  ○保護者への学校評価アンケート |
| ８月 | ○中間評価→検証  ◯生徒指導リーフの冊子を利用し、生徒指導について研修する機会をもつ。 |  |  |  |
| ９月 |  | ○運動会（縦割り対抗，紅白対抗）  ○新人戦選手激励会 | ○身体測定  ◯エンカウンター週間 |  |
| 10月 | ○現職研修②  （ケーススタディ） |  | ○「心のアンケート  （いじめアンケート）」  ◯エンカウンター週間  ◯Q―U実施 | ○学校評議員への学校行事・授業の公開 |
| 11月 |  | ○文化祭 | ○教育相談週間  ◯エンカウンター週間 |  |
| 12月 | ○全教職員による「取組評価アンケート」の実施→検証 | ○人権週間（講話）  ○赤い羽根募金活動 | ◯エンカウンター週間 | ○個人懇談会  ○保護者への学校評価アンケート |
| １月 |  | ○福祉実践教室  ○保健指導（命の大切さ）  ○立志記念行事（２年） | ○身体測定 |  |
| ２月 | ○自己評価 |  | ○「心のアンケート  （いじめアンケート）」  ◯エンカウンター週間  ○教育相談週間 |  |
| ３月 | ○学校関係者評価の結果を検証し、「基本方針」の見直し  ◯来年度への引き継ぎ事項をまとめる。 | ○三年生を送る会 |  | ○学校関係者評価委員会で「自己評価」の評価を行う。 |
| 通年 | ○校内のいじめに関する情報の収集  ○対応策の検討 | ○集会における校長講話  ○道徳教育、体験活動の充実  ○分かる授業の充実 | ○健康観察の実施  ○ＳＣによる相談  ○生活ノート |  |

☆いじめが発生した場合の対応については、関係する職員で迅速に、かつ共通理解を図りながら、対応していく。